

**WEEKLY SIGNAL**

平成30年8月31日(金) 1439号

上田八木短資株式会社

**来週の市場とレート予想**

	9/3(月)	9/4(火)	9/5(水)	9/6(木)	9/7(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	+ 800	+ 1,000	+ 1,000	ト ン	ト ン
財政他	△ 41,200	△ 34,000	△ 3,000	△ 20,000	+ 1,000
資金需給	△ 40,400	△ 33,000	△ 2,000	△ 20,000	+ 1,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 国債発行(2年)	普通交付税交付金 法人税・消費税・保険揚げ		国債発行(10年)	
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,100 国債補充供給 + 1,800 成長基盤 △ 4,600				
オペスタート	国債買入 + 9,700 共通担保(全店) + 1,300 成長基盤 + 2,900				
(日本)	製造業PMI(8月)	日銀営業毎旬報告(8月31日現在)	サービス業PMI(8月)	日銀片岡審議委員の講演(横浜市)	家計調査(7月) 景気動向指数(7月)
(海外)	米シカゴ連銀総裁、講演 (フエノスアイレス) ユーロ圏 製造業PMI(8月、改定値)	米シカゴ連銀総裁、講演 (フエノスアイレス) 米ISM製造業景況指数(8月) ユーロ圏 PPI(7月)	米ミネアポリス連銀総裁、講演 米貿易収支(7月) ユーロ圏 サービス業・総合PMI (8月、改定値)	米ニューヨーク連銀総裁、講演 米ADP雇用統計(8月) 米新規失業保険申請件数 (9月1日終了週) 米製造業受注(7月) 米ISM非製造業総合景況指数(8月)	米ボストン連銀総裁、講演 米クワフランド連銀総裁、講演 米ダラス連銀総裁、講演 米雇用統計(8月) ユーロ圏 GDP(4-6月、確定値)

**<インターバンク市場>**

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.020 ~ 0.050
SPOT 2M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

**<インターバンク>**

日銀当座預金残高は週を通して392兆4,900億円から393兆3,500億円のレンジで推移した。無担保コールON物は、先週に引き続き地銀業態を中心に日銀当座預金の基礎残高・マクロ加算残高の調整を目的とした調達ニーズが強く、27日~30日の同加重平均金利は△0.053%~△0.050%で推移した。月末である31日は調達を控える先もあり、△0.086%出合も見られ、やや軟調な地合となった。同加重平均金利は△0.055%まで低下した。ターム物は1W~2W物を中心に、△0.035%~△0.030%の水準で出合が見られた。31日に厚生労働省より公表された7月の有効求人倍率は前月より0.01ポイント上昇し、1.63倍だった。オイルショック直後の1974年1月以来、44年6か月ぶりの高い水準となった。一方、同日に総務省より公表された7月の完全失業率は前月より0.1ポイント上昇し、2.5%となった。来週の主な予定は、国内では日銀片岡審議委員の横浜市での講演(6日)や、景気動向指数(7月)の公表(7日)などがあり、海外では米雇用統計(8月)の公表(7日)や、ユーロ圏GDP(4-6月、確定値)の公表(7日)などがある。

**<オープン市場>**

CP3M(a-1+)	△0.001 ~ 0.001
TDB 3M	△0.200 ~ △0.150
先物(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

**<C P>**

今週の入札発行総額は約1兆4,600億円で、週間償還総額の約1兆7,100億円を下回った。発行市場は連日活況であったものの、月末の大量期落ち(1兆200億円)については約8,400億円程度の発行に止まり、償還超となった。月末の発行市場残高は、19兆4,000億円弱と先月末(約19兆3,207億円)から増加し、18か月連続して前年同月末残を上回った。発行レートは0%の出合いが中心となり、浅いプラスレートも散見された。28日、CP等買入オペ(31日スタート)が予定通り2,000億円程度オファーされ、按分レートは△0.001%と前回比横這い、平均レートは+0.001%と前回比+0.002%上昇した。来週の償還総額は、8,200億円程度となっている。発行動向は、一般事業法人では中間決算の有利負債の圧縮目的から、ショートターム心の発行が中心になるものと思われる。発行レートは、引き続き0%近辺~浅いプラスレートでの出合いを予想する。4日に、CP等買入オペが4,500億円程度実施される

**<TDB>**

31日に行われた3M780回債は、最高落札レート△0.1463%(前回債△0.1463%)、平均落札レート△0.1531%(同△0.1551%)と前回債とほぼ変わらずの結果となった。週末のセカンダリー市場は大きな動きは見られず、同3Mは△0.15%程度と入札水準での出合となっている。来週は9月6日に6M、9月7日に3Mの入札が予定されている。

**<レポ>**

銘柄先決めGCは週初△0.15%~△0.16%から始まった。31日受渡しは△0.15%近辺から出合が付き始めたが、△0.10%~△0.11%まで上昇。週末も同水準での推移となった。SC取引では、10年351回債で週前半△0.40%台後半~△0.50%台後半。以降△0.30%台まで軟化した。週末には再度△0.50%台後半で多く取引された。5年136回債は31日の国債買入れオペ後ビッドが増加。△0.20%台後半~後半の出合が見られた。その他2年390・391回債、5年135回債、10年340・341・345・346・347・348・349回債、20年163・164・165回債、30年58・59回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。